

## 読売新聞 きょう（2月7日）のイチ押し

### 1面 資金洗浄 AIで防止

金融庁はマネーロンダリング（資金洗浄）対策強化のため、AI（人工知能）を活用して不正送金などを検知するシステムを作り、全国の金融機関での導入を図ります。早ければ2021年度中に実用化し、対策が遅れている地方銀行などに利用を促します。

- ★ 反社会勢力による銀行口座の開設や、犯罪組織の関与が疑われる資金のやり取りを防ぐ狙いです。
- ★ 国際機関が2008年に行った審査では、日本の資金洗浄対策は先進7か国で最低とされました。新システムの導入で国際的な信用力の向上も図ります。

### 社会面 睡眠剤混入 薬飲み1日3回事故

製薬会社「小林化工」（福井県あわら市）が製造した薬に睡眠導入剤の成分が混入した問題で、この薬を服用し1日3回の交通事故を起こした男性（55）が読売新聞の取材に応じました。

- ★ 男性は、肺の感染症を患い2010年から毎朝4錠服用。昨年11月19日に処方された薬に睡眠導入剤成分が混入していました。
- ★ 6日後に3度の事故を起こし、救急搬送されましたが原因は分からず、薬の服用は続けていました。事故後9日間の記憶はないそうです。

### 他紙と比べて

「紡ぐプロジェクト」の4ページ特集では、東京国立博物館が所蔵する「普賢菩薩像（ふげんぼさつぞう）」の修理作業を紹介しています。戦後、文化財保護法によって初めて国宝に指定された絵画作品の一つ。800年以上前に制作された平安仏画屈指の名品です。修理は2019年からスタート。撮影・調査・解体・養生・・・などを経て、以前の修理で補われた補修絹や肌裏紙などを繊維1本ずつ取り除く19番目の工程までを今回、掲載しました。「紡ぐプロジェクト」は、日本美を守り伝えるため、文化庁、宮内庁、本紙が進めています。